

例会山行-沢登り・外ノ沢-

日時:2010/07/31-08/01

メンバー:田中(新),依田(君),田中(健),犬塚

行程:

07/31 東御市役所 6:20=(車)=鬼沢橋 9:05-取水堰堤 10:50-10m 大滝 11:25-ビバーク地点 17:40

08/01 ビバーク地点 7:15-40m3 段大ナメ滝 9:00-稜線 11:00-岩菅山 13:00-一ノ瀬 14:10/15:00=(車)=東御市役所
17:30(途中温泉に寄った)

沢登り... 苦い記憶が蘇る... だが,山行が近付くにつれ,徐々に楽しみになってきた. 岩魚が食える! それが今回の山行の当初の原動力だった.

07/31(Sat)

微妙な空だ... 雨は嫌だなあと思いながら,出発. 集合場所の東御市役所に向かう. 家から3分. 近い! 新一さん, 依田君さんと合流し, 高速に乗る. 道中, 話が途切れることはなかった. 今回はトークが尽きない山行になりそうだ. 小布施SAで健君と合流. まず, 一ノ瀬の駐車場にレガシィを置き, 健君のエクストレイルに乗り合せて, 鬼沢橋近くの駐車場に向かう. 登山開始. 東電巡視路をダラダラと歩く.



タマゴダケが生えており, 今晚のおかずにと収穫. そして, 僕は大きいマリオになった. そんなこんなで取水堰堤到着. 各々沢靴に履き替える.



隊長にいじめられるシンガリ.



溪流保安庁に勝手に就任する. 沢の水は冷たいと感じたが, すぐにその感覚はなくなる. ゆっくりと歩き出す.



釜のあるナメ滝だ。トンカツもといカナヅチの僕は溺れれば、ほの暗い釜の底へと吸い込まれることとなる。と自分をビビらせながら、釜を巻く。その後もダラダラ歩く。僕は足を滑らせ、河の中で座禅を組んだ。そう、これは滑ったのではなく、座禅を組みたかっただけだ、きっと。



10mの大滝は登ってみたかったが、今回は高巻く。熊沢の手前辺りから新一さんと健君は糸を垂らした。新一さん岩魚ゲット！健君もゲット！今晚のおかずは一安心だ。この辺りから僕は自分のお尻の穴と会話を始めた。お尻さん、お尻さん、調子はどうだい？ 沢登りの苦い記憶。それは、Gだ。数年前、沢登りによって冷えた体はお尻をも冷やし、それによってG発症... その後は通院し、少々難儀した。お尻さんの返答はGO(発症予備軍)だった。岩魚を狙いながら進むため、かなりの時間をじっとして過ごす。僕は徐々に焚き火を求め始めていた。



新一さんに指導されながら、僕も岩魚ゲット。魚といえども立派な眼をしている。岩魚からはどのように見えているのだろうか。睨みつけるようにこちらを見ていた瞳はやがて力がなくなる。せめてしっかりと食べてやらねばと思った。40mの大ナメ滝は角度こそないものの、そのスケールは圧巻だった。依田君さんはナメと出会って大喜びしていた。そして、二股到着。と、一番最後を歩いていた健君が来ない... 5分ほど待つようやく到着。よくみると全身びしょ濡れだ。ちょっとしたところで滑り、頭からチン。もがいてようやく脱出したらしい。健君はまた死線を乗り越えた。テント場探しに難儀しながらようやく適地を発見。お尻に確認を入れたところ、G1(G発症)とのことだった... 僕にGの戦慄が走った。そして、僕の動きは一気に鈍くなった。焚き火用の木を探したり、岩魚をさばいたりする。内臓も食べるということで内臓も綺麗に洗う。手の匂いを嗅ぐとおばあちゃんを思い出した。おばあちゃんは魚をさばくから、手から時々こんな匂いがしていた。おばあちゃんの魚の煮付けを食べたくなった。しばらくすると夜飯完成。今日の夜飯はご飯、岩魚入り味噌汁だ。美味し。その後、内臓の唐揚げも食す。魚の内臓もモツのような歯ごたえがあった。行動食にと岩魚の塩焼きも焼く。あまりに美味そうだったので、一匹頂く。



個人的には塩焼きが一番美味しかった。結局全部で14匹

釣っていた。気付くと21時を回っており、パラパラと弱い雨が降っている。新一さんと依田君さんはツェルト。



僕と健君の寝床はタープだ。地べたに銀マットを敷き、ノーシュラフ、シュラフカバーで眠る。沢音に混じって、雨がタープを優しく叩く音がする。長い一日が終わった。



お尻には依田君さんからもらったカイロを張る。奇跡を信じて...夜中に目を覚ますと、凄い雨音だ...と思ったら沢音だった。雨脚は強まることなく、明け方には止んでいた。

08/01(Sun)

4:30 起床。空にはやや太り始めた半月が浮かんでいる。お尻さん調子はどうだい？ そういう僕の問いかけにお尻さんは返事をしない。なにー！ Gさんはいなくなっている。僕は依田君さんに感謝の気持ちを抱かずにはいられなかった。火をおこそうと格闘してみるが、テンでダメ。しばらくすると新一さんが起きてくる。新一さんはいとも簡単に火をおこした。さすがだ。健君は熟睡して最後まで起きてこなかった。タマゴダケ入りのラーメンを食べ、行動食用に焼いた岩魚も食べた。



改めて塩焼きが一番だと思った。ゆっくり準備をして出発。二股状の伏流に辿りつく。奇跡のGさん失踪も、この頃になるとG2(ちょっと痛いんですけど)の次のステージへと進んでいた。この辺りからルーファイが大切になってくる。遡行凶通りに左俣を詰める。不安になりながら歩いていると、前から沢音がし出す。やがて沢に合流し、一安心。ただ確信が持てなかったようで、新一さんはしきりに確認していた。前を歩く新一さんの顔が明るくなる。40m3段大ナメ滝が見えたようだ。



息を飲むとはこのことだと思った。突然現れた滝は圧巻でGのことをしばらく忘れるほどだった。見た瞬間に、真ん中を攻めて登ろうと決めていた。滝に足を掛けると勢いよく水が自分の方へと向かってくる。やや冷たいが、それはむしろ気持ちを高ぶらせた。ノーザイルで登りながら考えていた。ニュースを賑わす山岳遭難。遭難者と自分の違い

はなんなのだろうか。なんの違いもない。ただ自分は事故を起こしていないだけだ。明確な差なんてない。自分は絶対に遭難者にならないと言える山屋がどこにいるだろうか。常に遭難をイメージしながら登るようにしている。ふと我に返る。取り付く前にイメージしたルートを辿る。登り応えのある滝だった。その後は右へ右へと沢を詰め、いよいよネマガリダケとの格闘が始まる。先頭の健君はいなすようにさりと登っていく。先頭を交代してみるが、全然上手く登れない。ネマガリダケとまさに格闘する。これは確実に経験の差であり、健君を尊敬せずにはいられなかった。1時間の格闘を覚悟していたが、30分程度で稜線に出られたのは嬉しかった。新一さんのルーファイ通りに行っていればコルに出られたのだろうが、どうしても自分は左寄りに進路を取ってしまい、コルよりも若干左手に出た。健君とお喋りしながら岩菅山を目指していると、いつの間にか新一さんも依田君さんもいなくなっていた。ここぞとばかりにムサイ男話に花が咲く。裏岩菅山でザックを下ろすと、ハエのような虫が僕と健君のザックにたかった。その数ゆうに100匹...そんなに臭いですか?!よからう。好きなだけそのエキスを吸うがよい。のんびりしていると新一さん・依田君さんも到着。車回収のため、ここで正式に隊を分けた。岩菅山を少し下ったところから、ランニング下山が始まる。有り余った体力を消費してしまうように駆け下りた。最後の最後ではお互い十数kgの荷物を背負いながら本気走りをした。あっちゅー間に一ノ瀬。車を回収に向かったが、途中でクマの親子と会った。車に乗っていたからよかったものの、乗っていないクマと格闘...恐ろしや。温泉に入って無事解散しましたとさ。

滝に登れたのは本当に良かったが、それ以上にGの恐ろしさを認識することとなった。泊まりの沢登りはしばらく控えることとしたい。完璧なG対策が立つまでは...